

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立大崎小学校

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
<p>1 健康でねばり強い子どもを育てる。</p> <p>2 自分で考え、すすんで実行する子どもを育てる。</p> <p>3 美しいものにあこがれ、だれとでも仲よく助け合う子どもを育てる。</p>	<p>1 心身ともに健やかな子どもを育てる。 ・きまりを守って安全に生活できる。 ・最後までやり抜く、ねばり強さを身につける。</p> <p>2 基礎学力の定着を図り、自ら考える子どもを育てる。 ・授業改善(聞く・読む・話す・書く・考える 毎時間の目標の明確化)。 ・基礎・基本の徹底、定着(学習規律、読み・書き・計算)。 ・感動体験、成就感、達成感を味わわせる。</p> <p>3 自他共に大切に、助け合う子どもを育てる。 ・自己肯定感、自尊感情を育てる。 ・一人一人の違いを、認め合うことができる。 ・協働の喜びを味わわせ、主体性・実践力を育成する。</p>

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】 全国 国語A、国語Bについては、県平均と比べると正答率が低い。 算数A、算数Bについては、県平均と比べると正答率は低い。</p> <p>国語Bの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域については前年度より県平均との差が改善された。しかし、他領域では改善できておらず課題である。 算数Bの「選択式」の問題形式は、前年度より県平均との差が改善された。しかし、「短答式」や「記述式」の問題形式には課題がある。</p> <p>903×6の掛け算は、本校97%(全国93%) 1/3+2/5の分数足し算、本校92%(全国91%) 事象の規則性と公倍数に着目は、本校25%(全国61%)</p>	<p>【学習状況調査の結果】 平日、1日当たりのテレビやビデオ・DVD視聴時間(1時間以上)の割合は県平均と比べて同程度である。 平日、1日当たりのテレビゲームをする時間(1時間以上)の割合は県平均に比べて多い。4時間以上する割合は特に高い。 家庭での学習時間(1時間以上)の割合が県平均に比べて少ない。全家庭学習をしない割合が県より高い。 1日当たりの読書をする時間(30分以上)は、県平均に比べて少ない。読書を全くしない割合は県より高い。 図書館に行く回数は、県平均より割合が多い。 「自分にはよいところがある」と思っている児童生徒の割合が県平均に比べて低い。 地域行事に参加している児童の割合は、県平均に比べて多い。 算数が好き。算数が大切だと思う児童は、県平均より多い。</p> <p>家庭学習を1時間以上している。本校36%(全国61%) 自分に良いところがある。本校50%(全国76%) 地域行事に参加。本校83%(全国68%)</p>

成果と課題	課題に対応した改善方法
<p>国語、算数ともに、基礎基本となる学力が十分習得できていない。 国語、算数ともに、活用型の問題を苦手としている。 活用型の問題で、「短答式」「記述式」の問題を苦手とし、無回答率が高い。 算数科の授業を少人数教室で行い、算数科が好きという割合が高い。 家庭での学習時間が少ない児童が多い。 自己肯定感の高い児童が少ない。 読書の時間が短く、全くしない児童が多い。 自分の考えを持ち、発言や発表をすることが苦手な児童が多い 地域ボランティアの様々な活動があり、地域行事の参加割合が高い。</p> <p>書くことの領域は、本年度51%(昨年度40%)と11ポイント上げた。しかし、読むことの領域は下げた。 数と計算の領域は、本年度77%(昨年度71%)と確実に定着率が上がっている。しかし、量と測定領域は下げた。</p>	<p>授業では本時の「ねらい」を提示し明確化させる。 授業の単元最後に振り返り学習を行う。また、学習課題に応じて既習事項や関連事項を復習する。 視覚的教材や提示装置の積極的利用で、授業内容をわかりやすくする。 学習の基礎基本である読み書き計算と聞く・話す・考えるを重視した授業を進める。 ○全学年、早目に漢字学習を進ませ繰り返し学習を行うことで、学年で習う漢字を習得させる。 朝学習、放課後学習、家庭学習で、個人の学習時間の量と質を高める。個別指導にも対応していく。 自主勉強を奨励し、1日1ページの課題を与える。 地域の方の読み聞かせや図書時間の取り組みなどで、本に親しむ機会をより豊かにする。 「ほめほめカード」などを利用し、児童の良いところに気付かせ自己肯定感を上げる。 家庭と連携をして、「お手伝い・マッサージカード」などを親子の触れ合いを増やしてもらう。 家庭や中学校と連携して、家庭学習の時間をより延ばし充実したものにす。 地域ボランティアの活動をより活性化し、学校と地域の連携を強め児童を多面的角度から育てていく。</p>

取組の検証方法及び検証時期	達成目標(数値目標)
<p>児童への学力テスト(NRT他)実施(1・3学期) 全学年、国語科算数科学習アンケートの実施(学期ごと) 児童へのQ-Uテストの実施(学期ごと) 児童への家庭学習調査アンケート(2・3学期) 上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。</p>	<p>国語科算数科の勉強が好きだと好意的に答える児童を、1割以上増やす。 家庭学習時間(1時間以上)の割合を5割以上に上げる。 学力テストの平均正答率を上げる。言語領域は105(全国平均100として)以上を目指す。 Q-Uテストで要支援群の解消と、学級生活満足群に属する児童の割合を5割以上上げる。</p>